

環境調査結果のお知らせ

令和8年4月7日9時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で12 cells/mL確認されました。アレキサンドリウム属は、100 cells/mLに達すると二枚貝を毒化させる可能性があります。また、平成29年にはアレキサンドリウム属の赤潮（最高：7,800 cells/mL）により、養殖マダイ及びカンパチでも被害が確認されています。当該プランクトンは、今後増殖する可能性がありますので、十分注意してください。

また、アカシオ・サングイネアが最高で40 cells/mL確認されました。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	アカシオ・ サングイネア	アレキサンドリウム 属
A ガラク (5.8m) 【10:23】	0	19.1	31.9	7.9	0	0
	2	19.2	32.8	7.9	40	0
	5	19.3	34.1	7.0	10	0
	10	19.3	34.2	7.5	10	0
	底層 14.5	19.2	34.2	7.4	-	-
B 勢井 (5.9m) 【10:38】	0	19.5	32.8	8.0	10	0
	2	19.5	33.5	7.9	0	0
	5	19.4	33.9	7.5	10	3
	10	19.2	34.0	7.0	0	0
	底層 19	19.2	34.2	6.2	-	-
C 馬の背 (5.9m) 【10:45】	0	19.5	33.0	7.8	10	0
	2	19.4	33.5	7.5	19	2
	5	19.3	33.9	7.2	13	12
	10	19.3	34.0	7.1	10	0
	底層 22	19.1	34.3	6.3	-	-
D 大室戸 (5m) 【10:13】	0	19.3	32.1	8.4	20	0
	2	19.6	33.2	8.1	40	0
	5	19.3	33.9	7.2	0	0
	10	19.3	34.0	7.0	0	0
	底層 19.5	19.2	34.3	7.1	-	-
E 湾奥ブイ (5.4m) 【09:59】	0	19.7	32.3	8.4	10	0
	2	19.6	33.2	8.3	10	0
	5	19.3	33.9	7.4	10	12
	10	19.2	34.0	7.2	0	0
	底層 16	19.2	34.1	6.7	-	-
F 大谷漁港内 (5.4m) 【11:02】	0	19.5	28.3	7.6	0	0
	2	19.7	33.1	7.8	10	0
	5	19.3	33.8	6.8	0	0
	底層 8.5	19.3	33.9	6.2	-	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				野見湾
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	1～4月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: ガラク

B: 勢井

C: 馬の背

D: 大室戸

E: 湾奥ブイ

F: 大谷漁港内

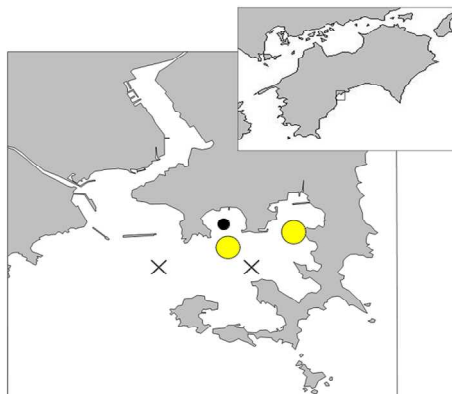
アカシオ・サングイネア

最大細胞密度



アレキサンドリウム属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0

×

1~9

10

100

1,000

10,000

100,000

300,000

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

